

正誤表

Duplex System menu 正誤表

同梱のマニュアルで下記の誤記がありました。

大変お手数ですが、お手元のマニュアルの訂正をお願いいたします。

その他、誤記などお気づきの点がございましたら、お手数ですがお知らせいただけましたら幸いです。

頁	誤り	訂正
P.18	<p>拡張 E1/E2 ポート サーボ接続ポートとしての設定の他、EX-Bus 入出力、の受信機の設定を行うことにより、PPM/UDI(SRXL) シリアルバス入出力信号ポート、さらに S.Bus 出力ポートとして使用できます。 詳細は、28 ページの ”ピン属性設定 (オルタネーティブピンコンフィグ Alternative Pin Config)” を参照してください。</p>	<p>拡張 E1/E2 ポート サーボ接続ポートとしての設定の他、EX-Bus 入出力、の受信機の設定を行うことにより、PPM/UDI(SRXL) シリアルバス入出力信号ポート、さらに S.Bus 出力ポートとして使用できます。 詳細は、21 ページの ”ピン属性設定 (オルタネーティブピンコンフィグ Alternative Pin Config)” を参照してください。</p>
P.19	<p>操作手順 1. 67 ページの ”Servo & Range Test(サーボ&レンジテスト)” を選択し実行します。</p>	<p>操作手順 1. 65 ページの ”Servo & Range Test(サーボ&レンジテスト)” を選択し実行します。</p>
P.25	<p>6. Use gyro(1-3) 最大 3 つまでの独立したジャイロゲインコントロールチャンネルを指定できます。それぞれのゲインに対するコントロールは 46 ページの ”Gyro settings(ジャイロセッティング)” から行うことができます。 7. 全ての設定が完了し、>> (F5) を押すと画面は 34 ページの ”Function Assignment(機能割り当て)” に移ります。</p>	<p>6. Use gyro(1-3) 最大 3 つまでの独立したジャイロゲインコントロールチャンネルを指定できます。それぞれのゲインに対するコントロールは 41 ページの ”Gyro settings(ジャイロセッティング)” から行うことができます。 7. 全ての設定が完了し、>> (F5) を押すと画面は 28 ページの ”Function Assignment(機能割り当て)” に移ります。</p>
P.33	<p>▶ Clear all Js 全てのトリム値をクリアします。(現状トリム、トリムメモリともにクリアされます)</p>	<p>▶ Clear all trims 全てのトリム値をクリアします。(現状トリム、トリムメモリともにクリアされます)</p>
P.43	<p>● Throttle Cut(スロットルカット) スロットルカット機能は安全対策として非常に有効な機能です。エンジン、電動を問わずこの機能を使用することによりここで割り当てたスイッチ・コントローラーによって、動力をオフの状態にすることができます。 ▶ Throttle-Cut switch を選択すると、スイッチ・コントローラーの指定画面が現れますので、ご希望のスイッチ・コントローラーを割り当ててください。 ▶ 続いて Throttle-Cut offset を選択し、スロットル出力を動力が完全にオフになるように値を入力してください。既定値は-100% です。</p>	<p>● Throttle Cut(スロットルカット) スロットルカット機能は安全対策として非常に有効な機能です。エンジン、電動を問わずこの機能を使用することによりここで割り当てたスイッチ・コントローラーによって、動力をオフの状態にすることができます。 ▶ Throttle-Cut switch を選択すると、スイッチ・コントローラーの指定画面が現れますので、ご希望のスイッチ・コントローラーを割り当ててください。 ▶ 続いて Throttle-Cut output value を選択し、スロットル出力を動力が完全にオフになるように値を入力してください。既定値は-100% です。</p>
P.51	<p>▶ さらにモーション(動作)として下記の 4 つをスイッチとして使用可能です。このスイッチはどれも一旦オンになった後すぐにオフになる動作(モーメンタリー動作)になります。 ◆ G/L Shake L/R: 左方向に送信機を揺する ◆ G/R Shake L/R: 右方向に送信機を揺する ◆ GXL Axis X<<: 送信機を左に傾ける ◆ GXL Axis X>>: 送信機を右に傾ける ◆ GHi X+Y+Z: 大きな加速度を検知 GHi は DLG などのハンドランチグライダーのランチ時の動きや、転倒、送信機の落下などの大きな動きを検出します。</p>	<p>▶ さらにモーション(動作)として下記の 4 つをスイッチとして使用可能です。このスイッチはどれも一旦オンになった後すぐにオフになる動作(モーメンタリー動作)になります。 ◆ G/L Shake L/R: 左方向に送信機を揺する ◆ G/R Shake L/R: 右方向に送信機を揺する ◆ GXL Axis X<<: 送信機を左に傾ける ◆ GXR Axis X>>: 送信機を右に傾ける ◆ GHi X+Y+Z: 大きな加速度を検知 GHi は DLG などのハンドランチグライダーのランチ時の動きや、転倒、送信機の落下などの大きな動きを検出します。</p>
P.54	<p>※ モデルタイムは、54 ページの ”Displayed Telemetry(ユーザーインフォメーション表示)” で表示の設定を行ってメインディスプレイに表示させてください。</p>	<p>※ モデルタイムは、58 ページの ”Displayed Telemetry(ユーザーインフォメーション表示)” で表示の設定を行ってメインディスプレイに表示させてください。</p>